

地域情報共有プラットフォーム 「あさひかわ ぐらしのアプリ」

取組名称	地域限定、Push通知など、細やかな情報発信が出来るサービスを運用開始		
何をめざす取組か (目的)	地域の情報をデジタルで届ける（共有できる）サービスを通して ・速やかな情報提供や地域限定の情報発信により、市民との距離感を小さくし、信頼される行政運営 ・市民が住んでいる地域の情報を知り、愛着を持ち、安心して暮らせる地域づくり ・市と市民や地域が情報を共有し、誰もが主体的に参加するまちづくり		
何ができるのか (取組内容)	必要な方に、直ちに、確実に情報を届けるサービスを開始		
	サービスの特徴 ・スマホやタブレットを通じてどこでも町内会の情報、市役所からのお知らせを一括して見ることが出来る ・スマホやタブレットをお持ちの方なら誰でも無料でダウンロードし閲覧が可能（情報発信時はPCからも操作可能） ・サービスは個人情報を入力することなく利用可能 ・市は地域を限定して情報配信が可能。市民は地域に特化した情報の入手が可能		
	運用を開始する主な機能 ①市から町内会に閲覧を依頼している行政情報をリアルタイムで閲覧可能な「市からのお知らせ」機能 ②町内会役員の負担軽減や会員同士の交流促進のための「電子回覧板」や「町内会の活動報告」、役員同士のチャットである「掲示板」機能 ※当初はモデル町内会や希望する町内会で試験運用(参加町内会を順次拡大)し、適宜バージョンアップ後、全市の運用 ③「ごみカレンダー」、 「広報誌」、 その他ぐらしに身近な情報を得られる各種機能 ④避難所・避難場所を地図で確認でき、災害発生時は開設されている避難所の現在地からの経路を表示する「避難情報」機能		
アプリによって 誰にどのような メリット があるか	現状の課題	サービス導入のメリット	
	市民	・広報誌やホームページは全市民、全地域向けのため、必要な情報を見落としてしまう ・既存の広報媒体は自ら積極的に情報を見に行かないと情報が得られない ・災害時、開設されている避難所など、どこを見れば良いのかわかりにくい ・広報誌や回覧板では情報が届くまでに時差が大きい	・地域限定の情報取得や、カテゴリ選択による情報選択が可能で欲しい情報が手に入る ・大事な情報はPush通知で配信されるため、必要な情報を見落とさない ・避難情報を一覧で確認でき、現在地から開設されている避難所までの経路も確認可能 ・リアルタイムでの情報収集を見ることが出来る
	町内会の役員	・様々な場所から閲覧の依頼が来るため、町内会側の作業が繁雑 ・行事の出欠確認に時間と手間がかかる ・未加入者に対して町内会の活動を伝える機会が少ない ・他の町内会がどんなことをやっているのかわからない ・町内会に依頼する回覧板は町内会未加入世帯には回覧されない	・データを蓄積しておいて、一度に作業が可能 ・既読確認、出欠確認機能で作業負担が軽減 ・町内会活動紹介機能で未加入者にも町内会の活動を伝えることができる ・町内会活動紹介機能で他の町内会の活動を新たな取組の参考に ・アプリ利用者であれば未加入世帯にも情報が届く
	町内会 未加入世帯	・回覧板の情報が見られない ・地元の町内会がどんな活動をしているかわからない	・市から町内会に閲覧を依頼する文書が未加入者でも見ることが可能に ・町内会活動紹介機能で地元の町内会の活動を知ることが出来る
	市外在住者	・家族や親族などの周辺で起こるこまめな情報が収集できない ・災害時など旭川がどうなっているのかわからない	・家族や親族周辺のぐらしの様子が分かることによる安心感を得られる ・災害時などは即時の連絡や応援要請等、市外からでも必要な対策を立てやすい
市	・広報誌や回覧板では情報が届くまでに時間がかかりタイムリーな情報発信が出来ない ・WebやSNSでは市民に情報が届いているのかわからない ・広報誌、Web、SNSなど、媒体によって閲覧する市民層が分かれてしまう ・災害時、市民にアクティブに情報伝達する方法がエリアメールや広報車などに限られる	・リアルタイムに情報発信が可能 ・配信した情報はタイムラインで閲覧可能。必要性が高い情報はPush通知も可能 ・幅広い世代等へ配慮した操作性の高いアプリにより、媒体を気にせず情報配信が可能 ・伝達手段が増え、また、より詳細で再確認可能な内容をPUSH通知や地域限定で発信可能	
今後の展望	健康管理を行うサービスや高齢者の見守りサービスなどの開発に着手 今後も必要なサービスを随時追加		